

# 「世界の平和について考えよう」

## 1年 道徳 内容項目C(18) 国際理解、国際貢献

### I 実践の目指しているもの

#### ○教材化にあたって

平和を目指し、世界にある悲惨な現状に立ち向かう人の例として、生徒と同年代のマララ・ユスフザイさんに着目した。彼女の生い立ちや、活動内容、その成果などには教材化する価値がある。特にノーベル平和賞受賞の時の彼女のスピーチには、一つ一つの言葉に彼女の強い意志と決意が込められている。よって、中学生の心に直接響くことを期待して、彼女のスピーチの言葉を抜粋し、( )に当てはまる言葉を考えることで、生徒がマララさんの気持ちやマララさんの立場に立って考える学習を構成した。

#### 【スピーチ引用箇所】

私の住んでいる世界が突然変わった時、私の優先順位も変わりました。私には、二つの選択肢がありました。一つ目は、黙ったまま殺されるのを待つことです。

そして二つ目は、(声をあげて) から殺されることです。私は二つ目を選びました。

#### ○資料の活用方法

本時の活動の最後に、戦時中の札幌市でも、戦争が理由で生活のあらゆることが制限されたり、我慢しなくてはならないことがあったりしたことを紹介するため、「札幌市民の戦争体験記」を活用した。

### II 研究の内容

#### 1 単元の目標

世界の悲惨な現状を知り、そのような状況の中でもただ黙ってなすがままに生きるのではなく、勇気を持ち、自ら声をあげることで現状を変えようとしたマララさんの強い意志について考えることを通して、自分の生活に生かそうとする心情を育む。

#### 2 今回取り扱ったマララさんのノーベル平和賞受賞スピーチ ※一部抜粋

##### ～スピーチ①～

私が10歳の時、美しく観光で有名であるワストは、テロの場所へと変わりました。400以上の学校が破壊されました。罪のない人が殺されました。私たちの誰もが苦しみました。

私たちの美しい夢は、悪夢となりました。しかし、私の住んでいる世界が突然変わった時、私の優先順位も変わりました。私には、二つの選択肢がありました。一つ目は、黙ったまま殺されるのを待つことです。そして二つ目は、声をあげてから殺されることです。私は二つ目を選びました。

##### ～スピーチ②～

私と友人は、パキスタンで通学途中にイスラム過激派組織に襲撃されました。でも、生きのびました。彼らの銃弾は、勝つことができなかったのです。私たちの声は、むしろ大きくなっていったのです。私は、自分自身だけの話を語っているのではありません。多くの少女の話を伝えているのです。私は、学校に行けない6600万人の少女のうち一人として皆さんに話しているのです。

1. 戦争するためにはそんなに「強気」になれるのに、平和をもたらすことには、なぜそんなに「弱腰」になってしまうのか。
2. 銃を与えることはそんなに簡単にするのに、本を与えることはなぜそんなに難しいのか。
3. 戦車をつくることはそんなに簡単なのに、教育することはなぜそんなに難しいのか。

##### ～スピーチ③～

だからみんなのために平等、平和、正義をもたらしましょう。それは、単に政治家や指導者だけのためではないのです。自分たち自身のために必要なのです。それは、私たちの義務です。だから私たちは、行動しなければなりません。もう、これ以上待つはいけないのです。私は世界中の仲間たちの子どもに立ち上がるよう呼びかけます。

親愛なる姉妹兄弟たちよ、私たちが最後になる決心をした最初の世代になりましょう。空の教室、失われる子ども、可能性のないこと・・・、これらのことを私たちと終わらせるのです。工場で働く少年少女が子ども時代に働くことは、もう終わりにしましょう。

少女が結婚を若いころに無理やりさせられるのは、もう終わりにしましょう。戦争でまだ幼い子どもの命が奪われるのは、もう終わりにしましょう。教室が空のままになるのは、もうこれで終わりにしましょう。犯罪の道や正しくない道へ少女を教育するのはもう終わりにしましょう。子どもが学校に行けないのは、もう終わりにしましょう。これらのことを終わりにしましょう。私たちと共に。そして、今ここでより良い世界をつくりましょう。ありがとうございました。

### 3 本時について

#### (1) 本時の目標

世界の悲惨な現状を知り、そのような状況の中でもただ黙ってなすがままに生きるのではなく、勇気を持ち、自ら声をあげることで現状を変えようとしたマララさんの強い意志について考えることを通して、自分の生活に生かそうとする心情を育む。

#### (2) 本時の展開 (1 / 1) ●教師の活動 ○生徒の活動

●ワークシートを配付しマララさんの写真を提示する。

○名前や知っていることを答える。

●マララさんのプロフィールを説明する。(掲示資料)

●スピーチ①の配付

○スピーチ①を音読する。

●( )の中に当てはまる語句を問う。

○( )の中の言葉を考える。 ●答えの提示

●スピーチ②の配付 ○音読する。

○( )の中の言葉を考える。 ●答えの提示

中心発問：マララさんは、どうして自分の考えを表明することにしたのだろうか。

○ワークシートに自分の考えを書く。

○考えを発表する。

●スピーチ③の配付 ●ゆっくりと音読する。

○ワークシートの(4)に、マララさんの追い求めるものを知り、今の自分に生かせることは何かを考える。

○4人グループになり、ワークシートをローテーションして、互いの考えへのコメントを記入する。(各1分)

#### 【追究後の生徒の姿】

マララさんが追い求めたものを知り、今の自分に何ができるか、身近なことから考えることができる。

●資料から戦闘が札幌でも起きていたことを確認する。

○留意点

どんな考えが出て  
も、基本的に受け入  
れる。

マララさんの考えを  
確認する。

身近な視点で考える  
ように促す。

※参考資料配付  
(札幌市平和バーチ  
ャル資料館の紹介)

(参考資料)

マララさんのノーベル平和賞（2014）授賞式のスピーチ① ※一部抜粋

私が10歳の時、美しく観光で有名であるワストは、テロの場所へと変わりました。

400以上の学校が破壊されました。

罪のない人が殺されました。

私たちの誰もが苦しみました。

私たちの美しい夢は、悪夢となりました。

しかし、私の住んでいる世界が突然変わった時、私の優先順位も変わりました。私には、2つの選択肢がありました。

1つ目は、黙ったまま殺されるのを待つことです。

そして2つ目は、（ ）から殺されることです。

私は2つ目を選びました。

マララさんのノーベル平和賞（2014）授賞式のスピーチ② ※一部抜粋

どちらにしても、殺されると覚悟していたのです。しかし、マララ・ユスフザイさんは、自分の考えを言うことを決意しました。自分の考えを言えば、より命を狙われるかもしれません。より残酷な目にあうかもしれません。それでも、自分の考えを表明したのです。

私と友人は、パキスタンで通学途中にイスラム過激派組織に襲撃されました。でも、生きのびました。

彼らの銃弾は、勝つことができなかったのです。

私たちの声は、むしろ大きくなっていったのです。

私は、自分自身だけの話を語っているわけではありません。

多くの少女の話を伝えているのです。

私は、学校に行けない6600万人の少女のうちの一として皆さんに話しているのです。

1. 戦争するためにはそんなに「強気」になれるのに、（ ）をもたらすことには、なぜそんなに「弱腰」になってしまうのか。
2. 銃を与えることはそんなに簡単にするのに、（ ）を与えることはなぜそんなに難しいのか。
3. 戦車を作ることはそんなに簡単なのに、（ ）することはなぜそんなに難しいのか。

(参考資料)

マララさんのノーベル平和賞（2014）授賞式のスピーチ③ ※一部抜粋

だからみんなのために平等、平和、正義をもたらしましょう。それは、単に政治家や指導者だけのためではないのです。自分たち自身のために必要なのです。それは、私たちの義務です。

だから私たちは、行動しなければなりません。もう、これ以上待つてはいけないのです。

私は世界中の仲間たちの子どもに立ち上がるよう呼びかけます。親愛なる姉妹兄弟たちよ、私たちが最後になる決心をした最初の世代になりましょう。

空の教室、失われる子ども、可能性のないこと・・・、これらのことを私たちと終わらせるのです。

工場で働く少年少女が子ども時代に工場で働くことは、もう終わりにしましょう。

少女が結婚を若いころに無理やりさせられるのは、もう終わりにしましょう。

戦争でまだ幼い子どもの命が奪われるのは、もう終わりにしましょう。

教室が空のままになるのは、もうこれで終わりにしましょう。

犯罪の道や正しくない道へ少女を教育するのはもう終わりにしましょう。

子どもが学校に行けないのは、もう終わりにしましょう。

これらのことを終わりにしましょう。

私たちと共に。

そして、今ここでより良い世界をつくりましょう。

ありがとうございました。

(参考資料)

# 道徳ワークシート

組 番 氏名

(1)スピーチ①の( )の語句

--

(2)スピーチ②の( )の語句

1.                      をもたらす	2.                      を与える	3.                      する
-------------------------------	------------------------------	----------------------------

(3)スピーチ②を聞いて

**【学習課題】**

マララさんの追い求めるもの

(4)マララさんの追い求めるものを知って…

今、自分ができることは何なのだろう 身近な生活の視点で考えてみよう	コメント (1分)

#### 4 実践のポイント

##### 【成果】

- 世界には、思いもしないような悲惨な現状があるということについて理解を深めることができた。
- その悲惨な現状の中で、諦めず、平和な世の中を追求する人がいることについて理解を深めることができた。

##### 【生徒のまとめ～作文より～】

「世界には、自分が想像もできないような悲惨な現状があることがわかった。そんな中で、マララさんは自分の危険もかえりみず、考えを主張したのはすごいと思った。」

「自分に何ができるかといえば、マララさんのように行動できるかはわからないけれど、身近にいる人を思いやったり、優しく接したりすることを繰り返していけば、平和な世の中がつくられていくように思う。」

##### 【課題】

- 「自分ができること」を考えさせるときに、あまりにも「身近な視点でできること」に焦点化してしまった結果、世界の平和を考える視点というより、「強い意志」や「望ましい人間関係」の構築のための方法を考える方向に生徒たちの考えが向いてしまった部分があった。

##### 【課題探究的な学習に関わって】

「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの1として、「難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。」がある。この内容の道徳授業では1時間で内容構成せず、2時間扱いとし、多くの映像資料などを交えることにより、生徒の興味・関心・意欲をもっと引き出せる教材であった。

マララさんが置かれている困難な状況や、彼女自身の実績と評価の情報を取り入れ、1時間目は、広い視野から「世界の平和を追求するには」について交流し、2時間目に今回の授業で行ったような「身近な視点」から、自分のできることを考えることで内容理解を深め、ポイント3の意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばすことが可能だと考える。